熱田入會式擧行　（向上新聞名古屋支局編）

五月廿日東京の本部一行は廿二日に至り近藤大佐は熱田殿に訪問したが東京中なりとて撫長大田大尉代りて應援したが向上会に對し決して部下の官吏に壓迫は無人と思ふ商調査して見ようと言はれ、たゞ或は巧妙に或は露骨に干渉の手を下しあるかを事実あしと云ひは如何に彼等は奥方なるかを証明するものである此の夜高藏菜師堂に於て熱田新入會者と音志踏通し計るため会合することとなり當実然入會式も擧行するに決定した午後七時頃より参会するもの約四百名宮下幹事長開會の辞を述べ西浦支部長入会勧説の動機輕過に就て概要を述べ本部幹部の熱列なる演説名古や新聞社記者葉山及小林會社筆ノ痛列ハなる激励辞ありて入會式をすゝて同夜終列車にて会長一行は帰阪の途

（大石堂文具店製）

に就いたが一度入會式をなすもの直接間接に干渉が甚だしいのでは入會式夜能はなかなかの最早入會式終了したるにもの上は如何なる干渉の手の下なるも更に恐るゝものなきの決心が最初當実の間に表はれ殊に前の生命は大本会員の為に擇ばなりとの人本会員の絶叫は萬雷の如き拘手を遮ぎ満堂被れ人叫人であつたの絶嫌を期して百方壓迫したる熱田官憲も刻々の浸入に対しては最早尋常一様の手段では何等の効なきを悟りて茲に關題の大山職員長藏首事件となつたのである。